

福祉産業建設委員会

行政視察
10月4～6日

道の駅へのホテル誘致 などを視察



「三重おおだい」の建物

道の駅北西に設置した、フェアフィールド・バイ・マリオット三重おおだいは、観光を起点に地域経済の活性化

三重県大台町道の駅へのホテル誘致

10月4日

令和5年10月4日から6日まで、道の駅へのホテル誘致、5町32社による周辺地域連携、ゼロカーボンの取り組み、複合的な福祉事業、日本一を目指す子育て支援事業、道の駅と子育て支援施設の併設など、参考となる施策に取り組み2市3町を訪問した。

化を目指す事業で、地域の人々との交流や道の駅との往来を促す設計となっている。従業員は地元採用し、地域雇用の創出に寄与している。

三重県多気町5町32社連携でデジタル田園都市に挑戦

VISIONの来場者数は、年間350万人程度で推移し、指標での集客数は10倍。運営における課題は渋滞対策で、来場者の8割が利用するスマートインターチェンジ直結は、行政と連携した入口が2か所になり、渋滞を緩和できた。

三重県桑名市ゼロカーボンの取り組み

10月5日

民間事業者も巻き込んだ、二酸化炭素排出



ゼロカーボンを学ぶ

三重県桑名市多世代共生施設事業

地域をつなげる場づくりとして、多世代共

量削減が課題とされ、令和5年4月からグリーン資産創造課を市長直轄化するなど、組織を再編成している。公民連携手法を活用し、できることから進めており、ゼロカーボン基金条例制定など、様々な取り組みを積極的に推進している。今後はコストダウンや技術革新の加速化により2050年の目標達成を目指す。



施設ごとに説明を受ける

岐阜県大垣市日本一を目指す子育て支援事業

10月6日

保育ニーズの変化に対応した子育て支援を推進されている。核家族化や母親の社

生型施設を整備し、支え手と受け手の枠を超え、互いに支え合う関係性を創出している。高齢者は、隣り合う施設の子ども達を見て、自然に笑顔になり活力をもらっている。各施設の事務室を一部屋に集約することで、事務の効率化に努めている。

岐阜県大野町道の駅と子育て支援施設の併設

会復帰の早期化に対し、保育や地域子育て支援拠点の整備、発達支援に取り組んでいる。

道の駅では、スーパーとの差別化が図られ、駐車場には、路線バスのハブ機能が備わる。西濃厚生病院が隣接するなど、常に人流を見込める環境づくりが進められている。また、子育て施設が併設され、木のぬくもりを感じる屋内環境が特色。その場で利用登録でき、町外の利用者が多い。



木のぬくもりを感じる遊具

総務教育委員会

行政視察
10月31日
～11月2日

水害防止対策、 就農者育成施設等を視察

令和5年10月31日から11月2日にかけて、市街地を水害から守るため、河川の越水を防ぐ治水対策や就農者の育成施設、また総合体育館、歴史博物館の設立に参考となる施策を展開している、二つの自治体を訪問した。

10月31日

新潟県見附市 「田んぼダム」活用による洪水被害防止

田んぼの水をためる能力を利用して、豪雨時に可能な限り田んぼに水をため、河川水位の急激な上昇を抑え、洪水被害を低減するのが「田んぼダム」の役目である。(下図参照)

この地域のように、広い田んぼが有効であるが、アイデアとして大変参考になる。

11月1日

新潟県新潟市 アプリパークで農業体験と就農支援事業

日本初の公立教育ファームで、子どもたちの農業体験と、生産者の6次産業化支援をしている。

幸田町子どもたち

の農業の学びの場創りをもっと推し進めたい。



ソーセージを作る子どもたち

「田んぼダム」とは？

田んぼの排水口径を、従来の150mmから50mmに縮小し、大雨が降ったときに田んぼに一時的に水を貯めることで、洪水被害を軽減する取組です。見附市は、新潟県内一の取組面積(約1,200ha)を誇ります。

「田んぼダム」をしなかった場合

従来の排水管
流出口径：150mm

● 水田に降った雨は速やかに排水され、河川・排水路の増水を招き、氾濫の危険性が高くなります。

「田んぼダム」をした場合

洪水調整管
流出口径：50mm

● 雨水を水田に一時的に貯めて、時間をかけて少しずつ流すことによって、河川・排水路の増水を軽減します。

亀田総合体育館の 運用状況

平成8年に総事業費約68億円オープン。利用者が多く、住民には欠かせない施設となり、ニーズに合わせた多様な予約システムが良い。



亀田総合体育館の内部

11月2日

新潟県新潟市 しろね大風と歴史の館

しろね大風合戦は、毎年6月上旬に5日間、川の両岸から風を揚げ、相手の風綱を引っ掛けて、切れるまで引き合う勇壮な祭りである。祭り期間中は休校し、子どもの頃から地域全体で風づくりに関ることなどで、後継者育成に貢献している。

制作費は、町内会費や広告スポンサーから賄っている。



展示された大風を見る委員

新潟市歴史博物館 「みなとぴあ」

平成16年3月開館。新潟港開港の歴史や、水害に苦勞していた住民の暮らしが展示されている。

小学校などの学びの場としても活用され、当日も多くの児童が訪れていた。